

山 遊 会

沿 革

幕別町山遊会は、昭和47年5月に発足以来、毎年6～10月までの5ヶ月間に月1～2回程度で道内の無理のない山への登山計画を立て、楽しく登山を行ってきた。昭和48年から、町主催の町民ハイキングの集いに共催と言う形で、毎年7月中旬に、身近な山へ、ハイキングと登山を行い現在までに15回を数える。また、昭和54年からは、山遊会独自の計画による町民登山を9月初旬に、ちょっと本格的な登山として開催してきた。登山となるとなかなか1人では行きづらいものです。そういう人達には、機会を与え、初心者には登山によって、苦しさ、つらさの後のさわやかさ、楽しさを十分に味わってもらえたと考えている。町民登山は、現在10回を数えている。

昭和55年度 会 長 宮内 伸夫
副 会 長 目黒 正勝
会 計 笹島よしみ

6月22日、佐幌岳(1,059.4m)の下見登山、参加8名。狩勝峠→頂上→新内登山口、約3時間30分の行程。7月20日、第8回町民ハイキングの集い(佐幌岳)を計画したが、残念ながら雨に降られ、登山を中止、然別糠平を廻って帰る。8月1～3日、知床羅臼岳(1,661m)へ登山、参加5名。9月7日、第3回町民登山、鹿追町白雲山(1,187m)へ登山、参加45名。

昭和56年度 会 長 橋本 猛夫
副 会 長 三好 信一
会 計 堀 裕司

7月19日、第9回町民ハイキングの集い、佐幌岳。昨年雨のため中止となったので再計画。この日は、帯広で気温が30℃を越える暑い日となり、風もなく、登山には良いコンディションではなく、参加者の水筒の中味はほとんどカラに近い状態であった。9月6日、第4回町民登山、鹿追町天望山(1,173.9m)へ登山、参加47名。湖水を見ながら湖岸を廻る。途中までは白雲山への道と同じ道に行く。分岐点で白雲山とは反対の登山道を登る。途中笹やぶがあり、先頭を歩いた人は、ダニが取り着き大変であった。また、帰り道は別のルートを通ったが、台風の爪跡がいたる所に見られ、風倒木の上や下を通り下山に要した時間が余分にかかった。

昭和57年度 役員留任

6月20日、日高アポイ岳(811m)の下見登山、参加4名。登山口⇄馬の背⇄頂上、約4時間の行程。7月18日、第10回町民ハイキングの集い(アポイ岳)を計画、雨のため、登山口で中止を決定。バスで日高廻りで帰る。昼食は、廃校のあとの温泉でとり、日勝峠を通過して帰る。9月5日、第5回町民登山。

昭和58年度 役員留任

7月10日、第11回町民ハイキングの集い、アポイ岳へ登山、参加137名。出発後、黄金道路、日高地方とも霧雨がふっていたが、登山口に着く頃には、快晴となり最高の天気となった。8月5～7日、大雪山白雲岳(2,229.5m)登山、参加6名。第1日目、銀泉台→第2花園→駒草平→赤岳

(2,078m)→小泉岳(2,158m)→白雲分岐→白雲岳→避難小屋。第2日目、避難小屋→白雲分岐→白雲岳→北海平(2,074m)→北海岳(2,149m)→北海平→白雲分岐→スレート平(1,881m)→高根ヶ原分岐→スレート平→避難小屋。第3日目、避難小屋→白雲分岐→小泉岳→小泉平(2,099m)→緑岳(2,019.5m)→小泉平→小泉岳→赤岳→駒草平→第2花園→銀泉台。大雪の山々は、お花畑の真盛りで、チングルマ、ツガザクラ、エゾコザクラ、キバナシャクナゲ、ヨツバシオガマ、イワヒゲ……名前を覚えられない程の花の種類であった。雪渓の端は、その時が春で、そこでは春と夏の花が同時に見られる。9月4日、第6回町民登山、高原温泉緑岳を計画、この日雨のため10月9日に延期したが、すでに時期的に遅く、現地では積雪があり、登山を断念した。

昭和59年度 役員留任

7月15日、第12回町民ハイキングの集い、雌阿寒岳へ登山。参加166名。8月大雪白雲岳登山、参加4名。9月2日、第7回町民登山、緑岳登山、参加100名。昨年計画したが中止となったため、この年再度計画した。緑岳頂上には、時間的都合もあり行けなかった。しかしこの登山は、北海道の屋根の軒先ぐらいには、参加者を案内したことと、熊の存在を示す跡を目で見たことと、更に黒豆の木の実を各自収穫したことで、我々も参加者も満足した。高原温泉⇔ハイ松帯までの4時間30分の行程。

昭和60年度 役員留任

7月21日、第13回町民ハイキングの集い、雌阿寒岳へ登山。参加210名。9月8日、第8回町民登山、再度緑岳を計画したが、当日、大雨により中止。

昭和61年度 役員留任

7月20日、第14回町民ハイキングの集い(白雲山)を計画、当日現地が小雨のため登山はあきらめ、東雲湖までのハイキングに変更した。参加128名。9月7日、第9回町民登山(緑岳)参加95名。数名頂上を目指す、時間の都合上7～8合目までしか行けなかった。

現 況

役 員	会 長	橋本 猛夫
	副 会 長	三好 信一
	会 計	助川 豊

7月19日、第15回町民ハイキングの集い、白雲山へ登山。参加80名。町の他の行事と重なったため、参加人数は最近にない80名と少なかったが、登山するにはまとまりやすく、登りに要した時間が短かった。全員が白雲山頂上に立ち、眼下の然別湖を眺めながらの昼食は、また格別の味であった。8月23日、第10回町民登山、緑岳へ登山。参加80名。今年は、参加者に夏のお花畑を見てもらいたくて、8月に登山を計画した。登山道では、第1花園、第2花園とお花畑があり、エゾツガザクラ、アオノツガラクラ、ヨツバシオガマ、ミヤマリンドウ、エゾコザクラ……などの群生が、あちらこちらに見られ、8月に計画したかいがあった。もうひとつ付け加えると、今年は、町民登山を始めて10回になるが、今回初めて、一歩間違えると遭難につながる様な事件があったが、大事にいたらず幸いであった。来年以降の教訓としたい。

展 望

町民ハイキングや登山に、年毎に新しい山を紹介し、参加した人々を頂上に立たせて来たわけですが、日帰り、人数などの条件下では、行ける山というのはだいたい決まり、マンネリ化してもやむをえないと考えています。次年度からは、7月の町民ハイキングの集いの行先は、鹿追町の白雲山とし、9月の登山は、2～3の山を年毎に変えて計画し、実行する。登山は、緑岳、赤岳、雌阿寒岳、アポイ岳などが考えられる。また、人数が少なければ、別の山も考えられる。夏山のお花畑を見るためには、7月下旬から8月中旬までが最適ですので、二つの事業の他に、少人数を募って、大雪の白雲山、黒岳とかを計画することも考えている。山遊会の次の時代のリーダーを捜し、育てるためには、是非ともやらなければならない。



第7回町民登山 緑岳（昭和59年9月）



役員（白雲岳にて）



町民ハイキング 白雲岳（昭和62年7月）



町民ハイキング 東雲湖（昭和61年7月）